

パンタナール通信

南北米福地開発協会 会報 2006年10月1日発行 第37号

図書寄贈式典

オリンポにて(9月1日)



図書寄贈式巡回報告

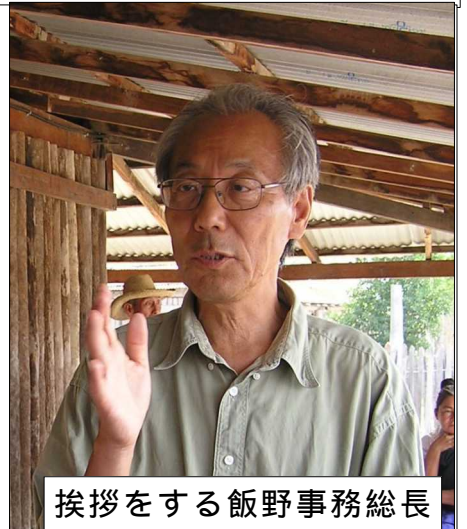
- 一・サン カルロス(小・中学校)
八月三十一日 九時一〇時半
 - 二・トロパンパ(小学校)
八月三十一日 十五時一十六時半
 - 三・オリンポ(インディヘナ村小学校)
九月一日 九時半一十一時
 - 四・バイアネグラ(小学校、中・高校)
九月四日 十五時一十六時
- スタッフ：飯野(運転、代表挨拶)、
佐野(通訳)、小田(ビデオ上映、
記録係)

八月三十一日から、サン・カルロス、トロパンパ、オリンポと寄贈式を行い、一旦レダに戻りました。
二日間で往復三七〇km程の行程でしたが、舗装道路は一切ありません。特に隣の牧場の道路を走って、マリア・アオキシンドオルという開拓村のある所から、公道になりますが、そこからサンカルロス、トロパンパの道は、でこぼこ穴だらけで、途中丸太の数本組み合わせた小橋が幾つも有って、その橋も、時折丸太の幾つかが外れたり、壊れて落ちていたり、その都度、更に轍でえぐられた脇道を迂回することになったり、牛や動物が道路に飛び出して来たり、ゆっくりと緊張の連続の中を走りましたが、全て守られて導かれるままに成すことが出来たのも、皆様のご支援のお陰と感謝しています。

更に九月四日、バイアネグラにも行つて喜ばれ、無事全て終了しました。今回は紙面の都合で、サン・カルロスの報告を致します。

一・サン カルロス(小・中学校)

朝六時半にレダを出発、目的地サン カルロス村に予定通り、八時半に到着、先ずヤシの丸太で作られた素朴な警察署によって挨拶した後、直接学校に向かった。村は百二十名ほどの村落で、どこも貧しいヤシの木の家が殆どだが、かつて木材を切り出して賑わっていた頃は、六千人くらい住民が居たところだけに、その凋落は寂しい影を落としていた。公道から数キロ奥まつて存在するこの村に、これといった産業が今は何も無く、ささやかな牧畜をやつて、かろうじて暮らしている程度で、仕事がなく、若者は村にとどまりようが無い。現在では誰も立ち寄らない見捨てられた村となっているが、かつての栄華のなごりか、村は碁盤の目に道路が敷かれ、一つ一つの家は、どこも百坪ほどの敷地をもつて、四角く木の垣根で囲まれていた。家々は貧しくともそれなりの緑の木々の下に建ち、落ち着いた雰囲気をかもし出していた。



挨拶をする飯野事務総長

学校の入り口前に、校長夫妻(二歳の子持ち)の小さな家があるが、その前まで車が来ると、既に前日ローマプラタから本や本箱を積んで、トラックをチャーターして十数時間かけて到着していた佐野先生が、笑顔で「飯野先生!」と声をかけてきた。

再会を共に喜び、早速、はす向かいの学校に行つた。既に朝早くから、子供達が集まり、そろいの白い半そでシャツで正装し、我々を待っていた。在校生は、小学生三十二名、中学生九名の田舎の分校と言う感じである。女性のマルチネス校長及び先生方と式次第と責任分担を確認し、直ちに準備に取り掛かった。

もう一台の車で、応援、見学の為同行した上山、金子、大和田各先生も、甲斐甲斐しく手伝ってくれた。

準備出来次第始めましようと言うことで、九時半から式は始まった。基本的に何処も、事前に連絡しておいた式次第を中心に進められた。司会開会宣言、パラグアイ国歌斉唱、歓迎の辞(小学校校長)、訪問者紹介(佐野)、訪問者代表挨拶(飯野)、寄贈図書紹介、図書贈呈、感謝の辞と感謝状、全体記念撮影、ビデオ上映となされ、最後に乾杯して終了だ。図書の寄贈されたものは、5個のダンボールの箱に包装紙で包まれたまま机の上に置かれていたが、一つ一つの箱毎に、それを開ける担当の父兄と生徒が出てきて、全員の注目する中開けていった。中から出てきた本を掲げることには歓声や拍手が上がった。とりわけ、ただ一人最も年長の9年生の男子が、包装紙を開けている時、彼はこの学校のホープだと紹介された。現職の大統領と同じ名前だ、大統領の名前の付いたTシャツを着ていたが、確かに積極的に皆の面倒を見ていた。私が握手を求めると、はにかみながらも「頑張ります」小さな声で言いながら右手を出してきた。感謝の辞は、女性の中学校校長がされたが、その中で「この村には

仕事が無く、見捨てられた村のよう、今まで何かをしてもらえる色々な方が約束をしてくれたことは何度かあるが、このように約束を即実行してくれたのは、初めてであり、本当に嬉しい。自分達は、この村を離れようと何度も思ったが、自分達が居なくなったら、誰がこの子供達を教育してくれるのだろうかと思うと去ることができなかった。教育だけがこの子供達に与えて上げられる唯一のそして一番大切な財産ですから。それだけに今回財団の方々の図書寄贈は、ありがたいし、これらの本を大切にしながら、一生懸命有効に使って子供達を立派に育てていきたい。



式典に参加し、喜ぶ子供達。



贈呈式後の記念撮影

これが最後の援助とならないよう願っています。」と切実に挨拶された。休憩の合間に飴玉が配られ、その後、ジェネレーターとプロジェクトを持参して、18分の当会の紹介のビデオ上映が、スペイン語のナレーションで行われた。大きな画面に、色々な動物が出てくる度に、子供達は歓声をあげて名前を叫んでいた。父兄も先生方もレダの美しさに「非常に美しい。素晴らしい！」と興奮気味に感想を言っている人が多かった。



多くの会員の皆様からの支援によって準備された教科書ならびに各種の本。

私が、代表挨拶の中で問いかけても子供達は明るく、反応が良かった。これは一つにマルチネス校長夫妻は共に教鞭を取っているが、とても夫婦仲がよく、愛情心を持った教育熱心ということの現れとされた。この校長も生まれはパラグアイの南部の街だったが、幼い頃この村に来て育ったので、この村の子供達を置き去りにしていくことは出来ない愛着があるし、何とか子供達たちを立派に育てたい、と熱意を持って語っていました。先生同士のチームも一つになっているのを感じました。私たちが、全てを片付けて、出発する時、丁度生徒達が整列して笑顔で私たちに手を振りながら下校して行きました。支援してくださった皆様に感謝で手を振っているようにも思えました。(飯野記)

バイア ネグロ市の教育文化省から 南北米福地開発協会宛への感謝状

MINISTERIO DE EDUCACIÓN Y CULTURA
Col. Nac. "Tte. 1° Adolfo Rojas Silva"

Bahia Negra, 04 de setiembre de 2006

Señor:
Secretario General De La Fundación Para El Desarrollo
Sustentables En Las Américas Del Norte y Del Sur.
Don SADA O HINO
Presente:

En mi carácter de Director del Col. Nac. "Tte. 1° Adolfo Rojas Silva", tengo el honor de dirigirme a Ud., en nombre mío, del plantel docente y alumnos/as de esta Institución a mi cargo, con el objeto de presentarle nuestros sinceros agradecimientos por tan valiosa colaboración consistente en mobiliario y materiales didácticos.

Los materiales didácticos, sin duda alguna serán de valiosa importancia para el apoyo y enriquecimiento cultural de los jóvenes de esta humilde Institución.

Reiterándole nuestros agradecimientos, aprovechamos la ocasión para saludarle muy atentamente y desearle éxitos en sus delicadas funciones.



Prof. Maximiliano Cano
DIRECTOR
Colegio Nac. Tte. 1° Adolfo R. Silva
Bahia Negra - Alto Paraguay

図書寄贈式会計報告 (2006.9.20)

収入:

支援金合計	¥1,090,000
A S D - N S A 補填金	¥110,000
合計	¥1,200,000

支出:

事務局広報連絡費	¥30,000
交通費 (チケット代他)	¥300,000
(飯野、東京 アスンシオン)	

両替 (\$ = ¥ 119)	¥870,000	\$7,311 ()
合計	¥1,200,000	

現地支出分: \$7,311 (内訳)

本代 (総計)	\$5,000
本箱代 (5箱)	\$380
交通費 (チケット、バス代他)	\$776
(アスンシオンーレダ)	

輸送代 (船&車)	\$560
巡回費 (食事、燃料代、宿泊代)	\$405
横幕代	\$50
配布用 (飴、飲み物、コップ) 代	\$80
雑費	\$60
合計	\$7311

シニアの方、チャコ地方での南北米福地財団のプロジェクトににご協力ください



現地の人と共に活躍する中田実主任と
日本のシニア ボランティアのメンバー

レダでの開拓が始まってから7年が過ぎ、8年目を迎えています。過去、7年間で近隣の村からの信頼も確立でき、パラグアイの農林省、アスンシオン大学の関係者も期待し、協力を申し出てきています。レダ開発の基礎的段階が終わり、これから本格的に土地の有効利用の道を拓き、産業を興すことです。それが出来れば近隣の村、そしてチャコ地方全域の土地が有効に利用され、国の発展にも貢献でき、財団の目的も達成できます。是非、多くの方の参加をお待ちしています。

二〇〇六年度 環境セミナー

第四回 十二月一七日

午前十一時―午後五時まで

場所：南北米福地開発協会事務局

費用 三千元（昼食付き）

内容 地球温暖化と植樹の重要性、

レダ開発について

南北米福地開発協会 事務局

〒二二一三〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

岩崎ビル四F

電話 〇四四一八二九一二八二

Fax 八二九一二八二〇

会費納入 郵便口座

一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

来年からは再び国際協力青年
ボランティアを募集します。
ご期待ください。

